

福井工業高等専門学校
環境システム工学専攻 2年

森 真七会

留学先 **ドイツ**

留学期間 **令和元年8月19日
～令和元年9月20日**



語学学校付近での写真

①留学をしようと思った動機

私は人との新しい出会いが大好きです。色んな人と出会い、話すことで自分になかった考えを発見し、固定概念を壊してくれるからです。そこで私は、インターンシップを海外で行い、海外の人と交流をしていく中で、新しい考え方を知り、自分の価値観を更新したいと思い、留学することに決めました。また、将来は福井に貢献できるような仕事をしたいと考えていました。そのため、国際展開をしている企業の下でインターンシップを行うことで異文化交流を行い、福井の産業をグローバルな視点から考えられるようになりたいと思い、地域人材コースでの留学を志望しました。

②留学の内容および成果

井上商事(株)にて2週間の海外インターンシップを行い、他3週はドイツ語の語学研修を行いました。井上商事(株)は、自社で製造・販売を行っているアルトイをドイツに展開し、海外拠点の設置並びに製造・販売を目標としています。そのため、今回のインターンシップでは、ドイツで8社、オランダで4社の企業を訪問し、営業体験を行わせていただきました。

営業体験をさせて頂く中で、現在ドイツで使用されている樋についてや、日本とドイツの建築物の違いについて学ぶことができました。井上商事(株)のアルトイは、シャープで意匠性があり、パイプの中まで塗装することで腐食対策が行われている画期的な製品であると高い評価を受けました。しかし、ドイツでアルトイを販売するには日本とドイツの規格の違いや、コストについてなど様々な問題があると感じました。また、日本の建物は耐震性を重視していますが、ドイツの建物は地震が起きることを前提として建物は作られていません。さらに、ドイツでは建物を作るときにもエコを重視しています。このように、日本とドイツでは建築物についての考え方に大きな違いがあるということも分かりました。

また、今回の留学で、当たり前は当たり前では無いということに気づかされました。私は海外に友達を作るという目標を立て留学へ行きましたが、正直友達にはできるものだとどこかで思っていました。しかし、同じクラスメイトは中学生からご年配の方まで様々で、もちろん日本語も通じません。私の拙い英語では語学学校で出会った人達とうまく会話が続き、友達を作るのに多くの時間を要しました。日本の学校では同じ言語を話し、近い年齢の人達ばかりです。この環境があるのは当たり前では無かったのだと実感しました。他にも、日本は治安が良く、安全に暮らすことができる国であることなど、日本で過ごしていたときには気づかなかった当たり前を見つめ直すことが出来ました。



インターンシップでの写真

支援企業

井上商事株式会社



ドイツの料理教室作ったプレッツェル